

別科助産専攻 助産師養成1年課程2026

▶奨学生制度

●日本学生支援機構奨学金

この奨学金制度は、勉学に励む意欲があり、またそれにふさわしい能力を持った学生が、経済的理由により修学をあきらめることのないよう支援することを目的として、国が実施する制度です。貸与型奨学金は、学生本人が借り、卒業後に必ず返還する義務があります。
この奨学金制度を希望する場合は、申込みから貸与・返還に至るまでの手続きを正しく行ってください。詳しくは、日本学生支援機構ホームページで必ず確認してください。

●病院独自の奨学金制度

都道府県・市町村の奨学金、各団体・企業(病院)等の奨学金があります。各奨学金の内容や募集時期・申込方法については、各団体のホームページ等で確認いただくか、直接お問合せください。大学に案内等があった場合は、掲示板・はちキャンWebにてお知らせします。

●学校法人光星学院 入学金給付制度について

本学院が設置する学校の卒業生・卒園生やそのご子息・ご令嬢、また、在籍している学生・生徒・幼稚園生の兄弟姉妹が本学院の設置する学校に入学する場合などに対し、入学金を給付する制度を設けています。詳細についてはキャリア支援課にお問い合わせください。

▶応募資格

看護師免許取得者および看護師免許取得見込み者

▶入試日程

募集人員	4名
出願期間	11月10日(月)~11月28日(金)
試験日	12月13日(土)
合格発表日	12月22日(月)
入学手続期限日	1月23日(金)
試験会場	本学
選抜方法	母性看護分野・小論文・面接

▶学費

入学金	270,000円
授業料	800,000円
教育費	346,000円
実習教育費	300,000円

※上記の学費以外に諸会費・教材諸経費・教科書等が必要となりますので、「八戸学院大学別科助産専攻入学者選抜要項」もあわせてご確認ください。

八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部 入試広報部

〒031-8566 青森県八戸市美保野13-98
TEL 0178-30-1700 FAX 0178-30-1702
E-mail nyuushi_kouhou@hachinohe-u.ac.jp



母子を支援し、
女性の健康づくりを支援する
助産師を育成します

Overview

別科助産専攻助産師養成1年課程

助産師を養成する1年間の課程です。「看護師免許取得者」および「取得見込者」が対象となります。
母子を支援し、女性の健康づくりを支援する助産師を育成。地域に根ざした母子の保健活動の実践を目指します。

PICK UP 01 助産診断学

助産診断学Ⅲ 分娩介助技術演習の一場面です。分娩介助は助産師に特徴的な技術のため、演習に臨む学生の表情も真剣そのものです。助産診断学の演習では、分娩介助技術の他に、妊産褥婦・新生児・乳幼児のフィジカルアセスメント、健康診査と問診技術、助産過程の展開などを学修します。講義で学んだ知識や理論を活用し、根拠を基に自分で考えながら実践できる能力を養います。



PICK UP 02 健康教育技法

現在の助産師には、妊産褥婦新生児のみならず、女性の健康、性と生殖に関する健康、女性とその家族・地域をも含めた生涯にわたる支援が求められています。「健康教育技法」では、対象が行動変容を行えるように試行錯誤しながら指導方法を考えます。具体的には、産科病棟における保健指導や、地域での幅広い対象に向けた健康教育を行うための技術や方法を学びます。



建学の精神
神を敬し、
人を愛する

別科長MESSAGE

18歳人口の減少は加速し、さらに看護職を目指す学生たちの多くが青森県外に流出していく中、「青森県南地区で助産師を育成し地元就職することで青森県の母子保健・医療に貢献する助産師を輩出したい」というのが開設の願いです。助産師には、「命」つまり「生きているこの時間」を大切にするために支援するという母子保健における大きな役割があります。あなたも挑戦しませんか？

八戸学院大学
別科助産専攻 別科長
高橋 雪子



カリキュラム

※○内は単位数

科目区分	1年次/1 Semester 春学期	1年次/2 Semester 秋学期
助産の基礎	助産学概論① ウイメンズヘルスケア② 母子の心理・社会学① 基礎周産期学①	生殖と生命倫理①
助産の実践	健康教育技法② 助産診断学I 助産過程① 助産診断学II 妊婦のケア① 助産診断学III 産婦のケア② 助産診断学IV 褥婦のケア① 助産診断学V 新生児・乳幼児のケア①	プレコンセプションケア① 周産期救急とケア①
助産の統合	地域母子保健I 概論① 助産管理I 概論①	地域母子保健II 保健活動の実際① 助産管理II①
助産学実習	臨地実習I 妊娠期・継続事例① 臨地実習II 分娩期・産褥期⑧ 臨地実習III ハイリスク事例①	臨地実習IV 助産管理・地域母子保健①
研究		助産学研究②

ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

1. 助産の概念や助産活動の基本及び妊産褥婦と胎児や新生児に関する知識を身に付けている。
2. 助産の実践に必要な基礎的な知識及び助産過程の展開に必要な助産技術を身に付けている。
3. 住民の多様なニーズに対応した母子保健サービスを提供するための能力を身に付けている。
4. 助産業務の管理と助産所の運営の基本及び周産期医療システム等の知識を身に付けている。

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

1. 助産の基礎的な概念と対象の特性や助産活動についての理解とともに、女性の健康に関する知識を修得するための科目を配置する。
2. 助産の実践に必要な専門的な知識と能力の修得とともに、助産の実践における総合的な能力を修得するための科目を配置する。
3. 地域母子保健の動向や課題及び地域母子保健の推進と社会資源の活用や関係機関との連携について理解するための科目を配置する。
4. 助産業務の管理の基本と病院・診療所・助産所の管理・運営や周産期医療システムに関する知識を修得するための科目を配置する。

アドミッション・ポリシー (入学者受け入れの方針)

1. 助産学分野に対する強い興味と関心並びに学習意欲を有している。
2. 助産学分野を学ぶうえで必要な基礎学力と学習態度を有している。
3. 自分の考えを的確に表現し、相手に確実に伝達することができる。

八戸学院大学について

八戸学院大学は、「神を敬し、人を愛する」を建学の精神とし、現在は地域経営学部地域経営学科、健康医療学部人間健康学科・看護学科の2学部3学科で、「学生に寄り添う、夢によりそう、地域によりそう」大学です。



学生 VOICE

別科助産専攻 松倉 紗蘭

私が本学の受験を決めたきっかけは、生まれ育った八戸市に貢献できる助産師になりたいと思ったからです。現在、青森県では周産期医療が集約化されており、助産師としての専門性がより一層求められています。本学では、助産師として必要な知識や技術に加えて地域の特性についても深く学ぶことができ、地域に根ざした助産師を目指す者として最適な学習環境だと感じました。そして、定員4名の少人数制であり、発表や質問の機会が多く、

自分の意見を発信する力を養うことができます。また、先生方に学習に関する不安や悩みを相談しやすい雰囲気があることも、大きな魅力です。多様な背景を持つ学生と共に過ごす1年間は、多くの刺激と学びにあふれ、充実した時間になると確信しています。卒業後は青森県内の病院に就職し、地域の母子の健康を支える周産期医療チームの一員として貢献できるよう、日々の学びを大切に、確かな技術と知識を身につけていきたいです。

